

中田朝夫さんの仕事

大西公恵 ONISHI Kimie

中田朝夫さんは、和光大学で小学校教員養成を開始した2015年に、心理教育学科に新しく設置された子ども教育専修初等教育課程に教授として着任なさいました。中田さんは35年にわたって小中学校の教育現場および教育委員会でお仕事をされてこられました。本学では、教育実習指導、理科教育、教育方法、教育課程論、特別活動論など幅広いテーマの講義をご担当され、現在の小学校教育の現場が抱える諸課題や授業の具体的な場面をふまえた事例や実践をもとに、子どもの学びや育ち、教師の役割、教師に求められる力などについて、学生に伝えてこられました。

課程開設以来8年間にわたって、私たちは教師を目指す学生が4年間の学生生活で何を学び、どのような経験をすることが望ましいのか、そして私たち教員はどのように学生の学びに寄り添うのかを考え続けてきました。教育実習指導の中核的存在として学生指導に携わってこられた中田さんの仕事を振り返ることは、これまでの和光の小学校教員養成の歩みを振り返ることになります。

教師の仕事は学習指導や生活指導だけでなく、保護者・家庭との連携、地域との連携など、非常に多岐にわたっています。中田さんは、そうした多様な仕事の中で、教師の責務として重要なことは何か、そして子どもの学びを保障するための学習指導のありかたとはどのようなものかを考える講義に力を入れてこられました。

中田さんは、教育実習指導の授業の冒頭で子どもの様々な表情を捉えた写真を学生に見せて、斎藤喜博の話をなさいます。満面の笑み、はっとした表情、不思議そうな表情、じっと何かを見据える鋭い目つき……。授業の中で子どもが見せるこうした豊かな表情は、子どもが教材と向き合い対話することで、新しい事実に出会って驚いたり、何かを発見したり、疑問に思ったり、納得したり、目が開かれたり、といった子どもの内面が表に現れ出たものです。中田さんは、これらの写真を通して、授業には子どもの内面を揺さぶり、子どもの中に変化や学びを生み出す力があることを学生に気づかせます。そして教師の仕事は子どもの内面にこのような変化をもたらす授業を作っていくことであり、そうした授業づくりがいかにおもしろいか、そして難しいかを学生たちにくりかえし伝えてこられました。

授業論、授業づくりの講義で、中田さんは「教える」ことに焦点を当てた形式的な授業方法の技術を習得するのではなく、学ぶとはどのようなことか、わかるとはどのようなことかという本質的な問題について考えることの重要性を強調されます。そして、子ども理解、授業づくりに関する深い理解を基礎として、子どもの学びを促すことのできる授業とはどのようなものかを追求し、そうした授業を作る力を獲得することを学生に期待しました。

中田さんは、子どもたちは教師側が提示する学習内容を単に受け取る存在ではなく、積

極的な意味構成者である、という学習者像をお持ちです¹⁾。子どもたちは、自らの経験や体験をもとに作り出したイメージや素朴な概念をもとに、他者と対話することによって、ものごとや事象を積極的に解釈していきます。そのため、子どもが他者とともに問題解決に取り組み、実感的な理解に到達するような授業を展開する力が教師に求められています。中田さんは、授業づくりに取り組み、模擬授業を行う学生に対して、教師は授業において「問い」が生まれるような工夫や働きかけを行うことはもちろんのこと、授業の流れの中で子どもたちの中から湧き上がってくる「問い」の瞬間も見逃さないこと、学習者の着目点や興味・関心に対し、常に敏感になっておく必要があることをくりかえし語られます。そして、学生自身が数々の課題に気づき、これからの地球や人類のあり方を自ら積極的に考える力を伸ばしていけるような教育活動をなさってこれました²⁾。

私たちは中田さんとともに本学の小学校教員養成課程を作ってきたこの8年間、常に「和光らしい」教師像や教員養成のあり方を模索してきました。大学で教員免許を取得するためには、基礎要件として、身につけなくてはならない知識や技能が非常に多く設定されています。しかし、教師にとって必要な「本物の知性」とは何かを考えた時に、本学の創設者である梅根悟の「大学では知識の注入から脱却して自己の知性の開発を志すべき」という言葉の重みを感じます。ただの物知りではなく、学生自身の中に潜んでいるものを発掘し、伸ばして本物の知性を身につけることが大切であり、そのために大学は「知的探究を行う自由」、「知の力を身につけることの自由」を保障する場でなくてはなりません。中田さんの学習者像、教育観は、本学の教育理念に相通ずるところがあると改めて感じます。

私たちは、個々の教員の学習者像、学習観、教育観を、対話を通して共有し、練り上げてきました。その過程で、中田さんから教師とはどのような存在であるか、教師として大切なものは何か、という本質的な問題について多くのことを学ばせていただきました。特に、私は教育実習指導担当教員として共同で学生指導を行う機会が多くありましたので、指導の進め方や学生とのかかわり方、大学教員としての生き方など、様々な相談に乗っていただき、同僚、同志、先輩、師として、温かく見守っていただきました。中田さんとともに作ってきた和光大学の小学校教員養成課程で学ぶ学生たちが、未来に生きる子どもたちを育てる「本物の知性」を持った創造性豊かな「和光らしい」教師となっていけるよう、学生に寄り添っていきたいと思います。

《注》

1) 中田朝夫「生活概念（日常知）から科学概念（学校知）への子どもの思考の移行」森本信也編著『理科授業をデザインする理論とその展開—自律的に学ぶ子どもを育てる』東洋館出版社、2017.3、pp.46-62

2) 和光につどう教師たちのプロフィール WEB 版

<https://noah.wako.ac.jp/fdb/detail2.php?id=36>、参照 2022.12.5